こころの病気を考える

☎　障害福祉課　55-2761

①こころのボランティア講座

と　き　9月30日㈫、10月7日㈫・11日㈯・21㈫、11月4日㈫　13:30～16:00　※そのほか1日こころの病気の人とのふれあい
ところ　フィランセほか
内　容　講話、施設見学、交流会など
定　員　30人(先着順)　受講料　無料
申し込み　9月5日～19日に電話で県富士健康福祉センターへ

②こころ健康づくり講習会

と　き　10月11日㈯　13:30～15:30
ところ　フィランセ西館4階ホール
テーマ　あなたのこころは元気ですか？
講　師　鈴木節夫さん（精神保健福祉センター所長）
定　員　30人（先着順）
参加費　無料
申し込み　当日直接会場へ

問い合わせ　①、②ともに県富士健康福祉センターへ　☎65-2155

9月 移動図書館車ふじ号の巡回日程

☎　中央図書館　51-4946

日	場所と貸し出し開始時刻
2日㈫	天間田代区公会堂駐車場(10:00)　ウィズ川成島店第2駐車場(14:00)　富士緑道堅堀広場(15:00)
3日・17日㈬	富士見台市営住宅集会所前(15:00)
4日・18日㈭	滝戸団地前(14:00)　湯沢平市営住宅内(15:00)
5日・19日㈮	スーパー吉川中里店駐車場(10:00)　すどの杜(11:00)　四丁河原南JA富島駐車場(15:00)
6日・20日㈯	鈴川中町フードランド前(10:00)　自由ケ丘県営住宅集会所(14:00)
11日・25日㈭	東芝松岡アパート(10:00)　高山県営住宅団地内(14:00)　歴史民俗資料館駐車場(15:00)
13日・27日㈯	富士信用金庫中丸支店駐車場(10:00)　城山町公会堂(14:00)　広見町静岡ガス社宅駐車場(15:00)

◇都合により中止・変更する場合があります。
◇中央図書館の休館日は、1日、8日、15日、16日、22日、23日、26日、29日です。

保育サポーター養成講座

☎　商業労政課　55-2778

と　き　10月16日㈭・22日㈬・24日㈮・30日㈭　10:00～16:00（全日4日間参加できる人）
ところ　ラ・ホール富士5階研修室
内　容　小児科医、看護師、消防士、栄養士、保育士の講義により、保育サポーターとしての心構えや保育技術を学ぶ
対　象　子育て経験を持つ中高年の人や保育士有資格者
定　員　40人（応募者多数の場合は抽せん）
受講料　無料
申し込み　はがきに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、保育士の資格の有無、子どもの年齢、活動ができる日時を記入し、〒417-8601 富士市役所商業労政課へ

9月9日は救急の日

消防本部警防課　55-2856

国民年金保険料の学生納付特例制度

☎　市民生活課　55-2755

納付特例が承認されると、申請した月の前月から3月まで保険料が猶予されます。また、申請が遅れると、その分承認期間の開始も遅れます。毎年度申請が必要になります。
※10年以内ならば、さかのぼって納めること（追納）ができます。詳しくは、市民生活課へ

富士市と嘉興市を結ぶ「市民友好の翼」派遣事業の中止について

本年秋、中国嘉興市を中心に予定されていた「第7回中国芸術祭」が来年度に延期されたため、このイベントに合わせ予定していた「市民友好の翼」派遣事業を今年度は中止します。

☎　国際交流室　55-2704

ダイヤル施設案内　☎52-1111

ダイヤルお出かけ情報　☎53-1111

ブロック塀などの撤去・改善費用の一部を補助します

☎　建築指導課　55-2791

地震の際、ブロック塀などの倒壊や転倒による災害を防止するため、撤去や改善をする費用の一部を補助します。

◎撤去の場合
工事費と塀の長さ1mにつき8,900円を掛けた額で、少ない方の額の1/2を補助します（10万円を限度）。

◎改善の場合
緊急輸送路沿いなどで、ブロック塀などの改善や、フェンスなどへのつくりかえをした場合、工事費と塀の長さ1mにつき3万8,400円を掛けた額で、少ない方の額の1/2を補助します(25万円を限度)。※詳しくは建築指導課へ

健康食生活講座

☎　保健福祉センター　64-8993

と　き　9月26日㈮　9:30～12:30
ところ　フィランセ西館2階　調理実習室
内　容　コレステロール値が気になる人のヘルシーメニューの調理実習
対　象　40歳～69歳のコレステロール値や中性脂肪値が高めの人
定　員　30人(応募者多数の場合は抽せん)
受講料　材料費一部負担
持ち物　筆記用具、エプロン、三角巾、ふきん2枚
申し込み　9月19日までに電話で保健福祉センター成人保健担当へ

秋の農作業安全運動 ヒヤリ・ハッとは、危険な予感！

☎　農政課　55-2781

～危険を感じた作業は、しない、させない！～

9月の1か月間、県下全域で、秋の農作業安全運動が行われます。

農作業事故は相変わらず多く、全国で毎年400人もの人が亡くなられています。特に、農業機械による事故は重傷になるケースが非常に多く、家族をも不幸に巻き込んでしまいます。

秋の収穫期を迎え、農業機械を扱う機会も多くなります。「自分だけは大丈夫」と思うのは、大変危険です。点検を小まめに行い、事故の原因を一つ一つ取り除きましょう。